

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900250		
法人名	有限会社 環境設備		
事業所名	グループホーム プランタン 1階		
所在地	旭川市東旭川町上兵村464-1		
自己評価作成日	平成30年1月18日	評価結果市町村受理日	平成30年3月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0172900250-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401
訪問調査日	平成30年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境が良く、広大な敷地にとっても恵まれています。
敷地内には、デイサービスと有料老人ホームが併設されており、他利用者との交流も行われています。
近郊からの利用者も多く、昔ながらの友人との交流も出来、安心して過ごせます。
週に一度の施術サービスを利用する事も出来るので、健康で楽しみを持てる生活を送れる様、常に心掛けています。
私達は、利用者自身が自分で出来る事は自分でして頂き、職員の見守りや声掛け等で過度な介護は避け、利用者の尊厳を守っています。
管理者と職員、職員同士の関係もとても良好で、暖かい雰囲気があります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

旭山動物園・兵村記念館・旭川神社に近く、昔馴染みの文化に触れる事ができ、静かで穏やかな環境にある、2003年に開設した事業所である。運営母体である法人は、多くの福祉や介護事業を展開しており、同じ敷地内にはデイサービスセンターと有料老人ホームが併設されている。各居室は約23畳の広さがあり、トイレ・シャワー室・キッチン流し台・大型収納が設置され、慣れ親しんだ家具や日用品に囲まれ、個々の利用者が住みよい暮らしができる様に支援している。防災面にも配慮し、事業所はRC3階建て耐火構造になっており、消防計画に従い利用者参加で避難訓練を実施している。水や食料品を備蓄し、玄関には非常持ち出し袋を設置し、廊下には災害時の避難経路を掲示している。遠出の外出が年々難しくなってきたり、日常的な外出支援に力を入れ、広い敷地に東屋を建て、毎日の散歩・外気浴・日光浴に効果を上げている。看護師は職員として配置し、柔道整復師による施術サービスがあり、利用者の健康や介護予防にも配慮しており、家族の信頼も厚い。はるか大雪山系の山並みを眺められる恵まれた住環境のなか、個別支援を実践している地域密着型事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「喜んでもらい」「喜べるよう」にとの理念を職員全員で理解し、笑顔の多い「家」になれるよう取り組んでいます。	事業所独自の理念、『利用者に喜んでもらい 私たちも喜べるよう努力します』を、各ユニットや玄関に掲示し、全職員は日々のケアサービスで共有し実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、敬老会などの行事には参加しています。地域の医療機関の往診、商店への買い物を通じ交流を行なっています。	利用者は町内会行事に参加している。事業所には、フラダンス・スコップ三味線・手品等のボランティアの訪問も多い。旭川ラーメン協会20周年行事として、無償で出来立てのラーメンの提供があった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当事業所にはデイサービスセンター、有料老人ホームが併設されている為、地域の高齢者の必要としているケアを提供出来る様になっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況報告、地域包括センターや協力医療機関との情報交換・近隣商店の店主などと意見交換し、災害時の協力体制についても相談しています。	地域住民・協力医療機関職員・地域包括支援センター職員等が出席し、定期的に開催している。利用者の状況・行事予定と報告・地域との交流・防災計画等を話し合い、サービスの質の向上と事業所の運営に効果を上げている。	運営推進会議の案内はしているが、家族の参加が少ないのが現状である。家族の参加が得られるように職員会議などで検討することを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護高齢課などには普段から相談に乗って頂き、すぐに連絡出来る関係を築いています。	旭川市介護高齢課を訪問して、関係書類の提出や、利用者相談・事業所運営等の助言を受け、ケアサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、事例検討を行なっています。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかっている。事業所の職員がメンバーとなっている身体拘束委員会では、事例検討を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待防止を理解し、利用者が尊厳を持って生活していける様に日々話し合い取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市や他事業所、関連施設から連絡された研修会、勉強会等には積極的に参加し、今後に向けその都度検討しています。参加出来なかった者への資料配布もしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、都度の事例なども含め十分な時間を取り説明を行ない、理解協力を得ています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者も参加して頂き、意見、不満、苦情を自由に表せる機会を設けています。一人、ひとりの利用者に合わせ迅速な対応が出来る様に努めています。	来所時の会話や、アンケート用紙に書かれた希望や要望をくみ取り、家族の思いを運営に反映するようにしている。利用者家族には毎月事業所便りを送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見を聞くためのミーティングを行ない、自由に意見を出し合い、今後の就業に向けて役立てています。	定期開催するユニットミーティングや、日々の連絡・報告事項時に職員の意見を聞き、業務に反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と職員の勤務状況は、毎月シフトを作成し勤務しています。管理者と職員で気持ち良く働ける様に、気持ちを汲み取りながら話し合いや意見を出し、環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等はその職員のレベルに合った研修を受講してもらい、他職員に対し勉強会を開き、スキルアップを目指しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で開催の会議・研修には参加し、他事業所との交流を深めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	利用開始から利用者との面談時間を設け、コミュニケーションを図り、「その人」が何に困っているかを考え、安心して利用して頂けるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前から利用者は勿論、家族から不安な事などを十分聞き入れ、安心して利用して頂ける様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の話をよく聞き、利用者にとって必要なサービスが選択出来る様に支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊敬の念を忘れず、利用者から昔の話を聞いたり、知恵を教わったり、共に支えあう関係を築き生活しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活の様子を定期的に報告し、家族の協力と理解を深めながら、利用者と家族の絆を大切にしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も必要になる場合もありますが、昔から馴染みのある美容室、商店などに行ける様に支援しています。	家族と共にレストランでの食事や馴染みの美容室に出掛けている。また、正月には自宅で過ごす利用者もあり、昔からの関係性の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が介入しながら、会話・ゲームなどで楽しんでいます。利用者同士がトラブルにならないように配慮も行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了してからの関わりを必要とするケースはなかなかありませんが、必要に応じて相談・対応を行なっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の意向を尊重し支援しています。	家族から得た情報や、利用者の行動・表情・過去の生活歴を基に、思いや暮らし方の希望や意向を聴き、職員間で情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを利用者や家族から聞き取っています。他事業所・入院先などの医療機関・包括などから情報を得る事もあります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状態を把握して、押しつけにならないように、各々の生活リズムを尊重しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者も意向を尊重し、安心して穏やかな生活が送れるように、サービス担当者会議を開催して介護計画を作成しています。	身体の変化や本人・家族の要望を聞き、今一番必要としている事をケアプランに反映している。医師や看護師と意見交換を行い、常に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の出来事は介護記録・申し送りノートにありのまま、詳しく記録しています。それにより経過を把握し、介護計画の見直しに活用しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望に応じ、かかりつけ病院への通院介助、買い物や家族の見舞いの付き添いなど柔軟な対応が行われています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店、一般ボランティアなど認知症の理解を求めながら、安全に生活出来るように支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の信頼している、かかりつけ病院に安心して受診出来る様に支援しています。	利用者希望のかかりつけ医への受診に同行し、常に適切な医療が受けられるよう支援している。事業所の看護師が日常の健康管理をしており、柔道整復師による施術サービスを週一度実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師による定期的な訪問により、健康管理を行ない、職員も利用者の健康に関し相談出来る体制が整っています。体調不良の利用者がいれば、都度電話にてアドバイスをもらっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院に際し、主治医、家族と相談しながら、一日も早く退院出来、安心して生活出来る様に支援しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にも利用者、家族の意向を聞いています。利用者の状況を把握しながら、本人、医療機関、家族、職員との間で話し合いにより方針を決めています。看取りの指針を作成しています。	重度化した場合や終末期のあり方については、指針を作成し入居時に説明をしている。関係者全員で今後の方針を話し合い、不安感をもたない様に対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による普通救命講習を受講しています。またマニュアルを作成し対応しています。急変時には医療連携機関が24時間対応してくれます。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導による避難訓練を年に2回以上行ない、運営推進会議においても地域の方々の理解を得ています。	消防署参加のもと避難訓練を行っており、地域の人々の協力も呼びかけをしている。水・食料品・ポータブルストーブ等の災害時備蓄品を用意しており、玄関には、非常持ち出し袋を設置している。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを理解し、その利用者に見合った会話、声掛けを行ない、人格を尊重し対応しています。	生活歴や暮らしぶりの中から価値観を理解することで、個別性や尊厳を尊重し、プライバシーを守るケアに結びつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の中には、自分の思いを言葉に出来ない方・失明した方もいますが、傾聴・声掛けにより気長に接しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合により押しつけにならないように、一人ひとりの希望を聞き入れ、また、表情の変化を感じ、その人らしい毎日を過ごせる様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合ったお気に入りの服を自分で選び着用したり、買い物にも同行。希望により訪問理美容を利用しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に家庭的な雰囲気の中で食事を楽しんでいます。準備、片付けを進んで手伝ってくれる方もいます。	食事の準備や片付けを一緒に行い、利用者の誕生日は何を食べたいのかを確認し反映している。出前や実演寿司等で、食の楽しみの支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門的なカロリー管理は行なってはいないが、系列の食事部会により栄養バランスを考慮し献立が立てられています。摂取量を把握しています。状態に合わせ、刻みやミキサー食の提供もしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨き、義歯の清掃は利用者の状況に応じて行なっています。必要時には歯科往診対応も行なっています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄状態を把握し、声掛け、定期誘導などの介助を行なっています。自立されている利用者には、排泄チェック表に記入してもらい、回数を確認を行なっています。	しぐさや習慣から個々の排泄パターンを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。各居室にはトイレが完備され、プライバシーも保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事摂取量の把握を行ない、服用している便秘薬、整腸剤、排便状況も確認しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週に2回の入浴ですが、利用者の希望や状況に合わせた対応を行なっています。各居室にはシャワー室が設けられています。	利用者の体調や希望に合わせて週2回は入浴できるよう支援し、体力の消耗を減らし、気持ちの良い入浴ができるよう取り組んでいる。各居室には、シャワー室を設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間後も居室でテレビを観たりするのは自由です。自分の使い慣れた家具を使用し、それぞれが満足し休息、睡眠が出来るように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院から処方されている薬はきちんと服用するように徹底しています。職員は薬の内容を理解し、またいつでも確認出来る様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に折り紙やカラオケなどで楽しめるようにしています。毎日の掃除を張り切って手伝ってくれる利用者もいます。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院、散歩、買い物、喫茶店など利用者の希望を聞きながら外出支援を行なっています。家族の協力を得る事もあります。	季節や天候を見ながら東屋での外気浴や、近隣の散歩や買い物で戸外に出掛けている。事業所は旭山動物園に近いことから、職員と共に見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、預り金として金庫に保管しています。自分でお金の管理が出来る利用者は家族の理解を得て、訪問販売で菓子などの買い物を楽しんでいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室に自分の電話を持っている利用者もいますが、他の方は事業所の電話を使用してもらっています。手紙の代筆や投函も希望があれば行ないます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広く、明るく利用者にとって快適に過ごせるように工夫されています。	共用空間であるリビングや廊下の壁には、ユニット毎にディズニーキャラクターの壁紙が貼ってある。広い廊下には随所にソファが置かれ、利用者は思い思いの場所で寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールは常に利用者のコミュニケーションの場となっています。自由に過ごせたりしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は23畳と大変広く、トイレ、シャワールームが設置されています。使い慣れた家具などを持ち込み、プライバシーも尊重されています。家族の泊りも可能です。	約23畳の居室には、トイレ・流し台・シャワールーム・収納スペースがあり、電動ベッドが設置されている。家族の宿泊にも対応できる十分な広さがあり、昔馴染みの生活用品を置き寛いで過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の家具の配置、トイレの手すりなど、利用者一人ひとりの状態に合った環境作りを工夫しています。		